

## インフルエンザワクチン

### 1) 不活化ワクチン

鶏卵内で増殖させたインフルエンザウィルスをエーテル処理で分解し膜成分や核酸を除去、エーテル除去後ホルマリンで不活化し、免疫に必要な表面の赤血球凝集素（HA）を含む分画を主成分として用いる。

### 2) 効果

感染を完全には防止できないが、発病や重症化を約60～80%予防する。接種後約2週間で効果を発揮し、約半年間が有効期間とされる。

### 3) 接種推奨者

高齢者、小児、妊婦、呼吸器・循環器・腎臓に慢性疾患を持つ人、糖尿病など代謝疾患を持つ人、免疫機能が低下している人はインフルエンザが重症化し易くハイリスク群と呼ばれ、ワクチン接種が推奨される。

### 4) 予防接種法における定期接種の対象

○65歳以上の人

○60～64歳で呼吸器・循環器・腎臓の機能に障害があり、身の回りの生活に極度の制限のある人

○60～64歳でHIV感染による免疫機能障害があり、日常生活がほとんど不可能な人

が対象となり、万一副作用が生じた際は予防接種法に基づき救済される。その他は任意接種となる。